



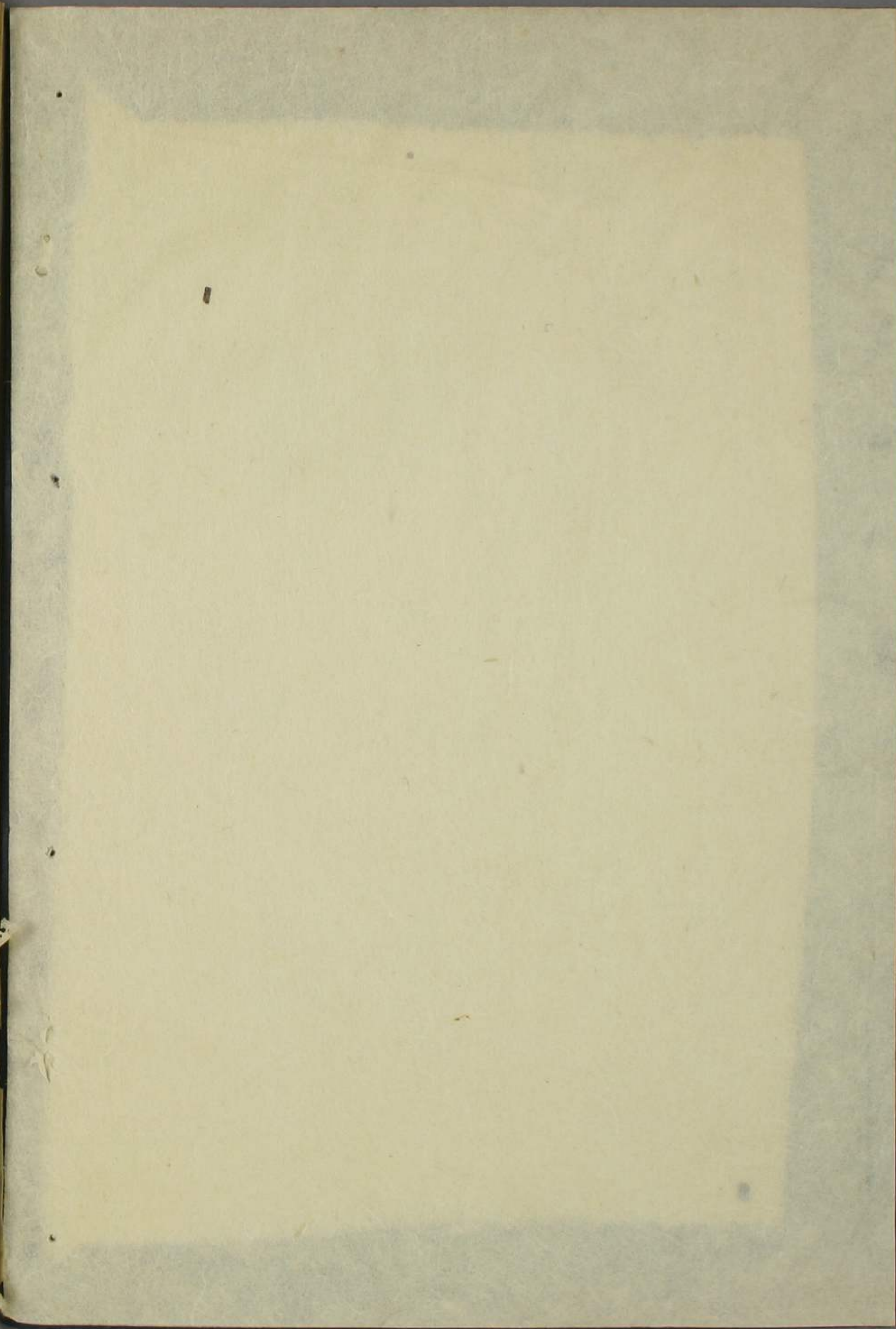
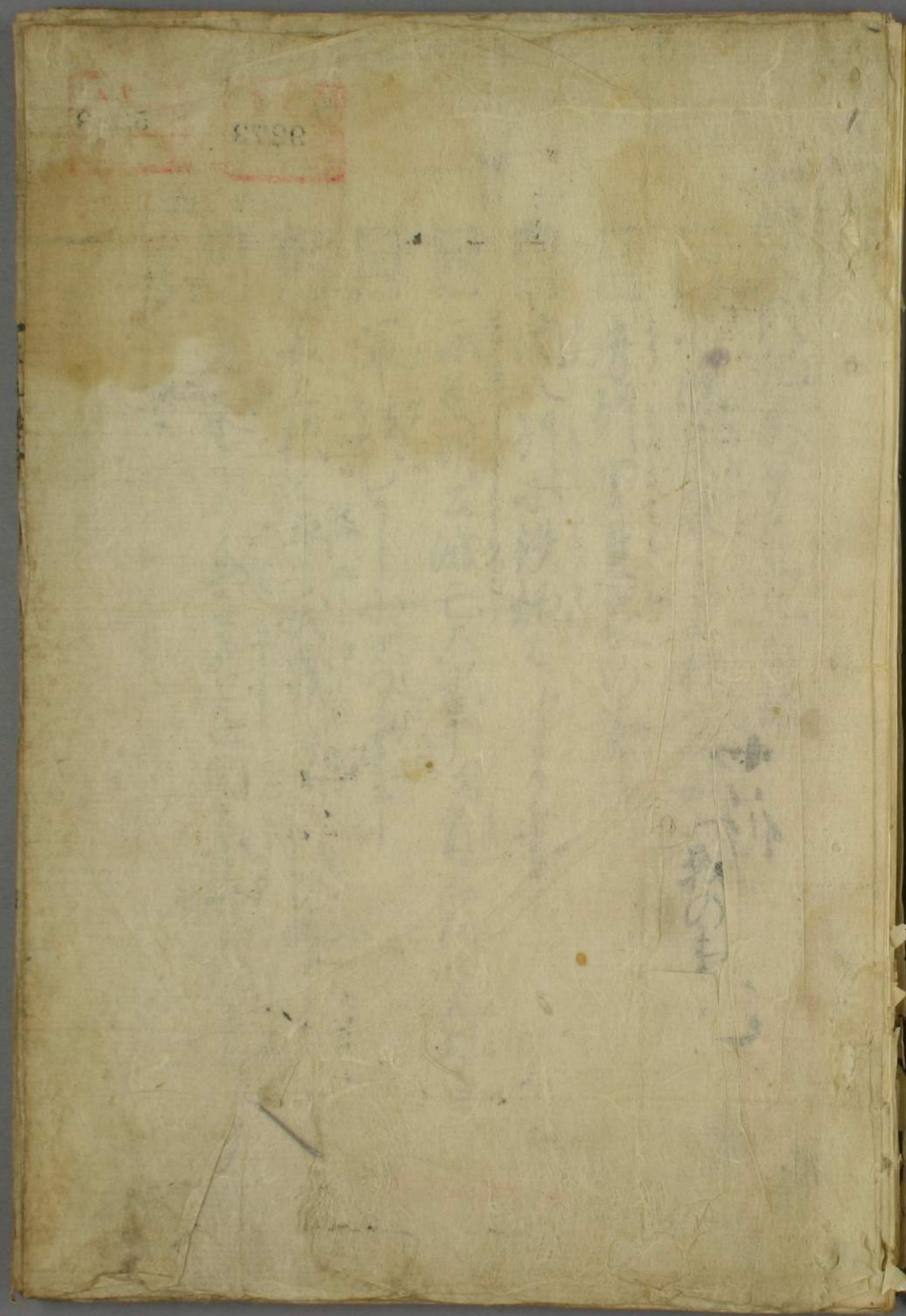
北條五代記

卷三

リ 5  
9273











小條氏代記卷第三之目錄

- 一 小條氏康と上杉憲政一戦の事
- 二 房州里見家の事
- 三 関八州小鉄炮の事
- 四 源義明公滅亡の事并首志の事
- 五 軍法むじり小ウツの事
- 六 友上杉と平氏戦の事
- 七 應永よりある事



門リ  
號 9273  
卷

門リ  
號 5383  
卷

小條

57257



一 小澤氏家系  
 二 小澤氏家系  
 三 小澤氏家系  
 四 小澤氏家系  
 五 小澤氏家系  
 六 小澤氏家系  
 七 小澤氏家系  
 八 小澤氏家系  
 九 小澤氏家系  
 十 小澤氏家系



小澤氏代記卷之三

一 小澤氏康と上杉憲政一戦の事

一 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 二 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 三 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 四 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 五 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 六 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 七 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 八 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 九 小澤氏康と上杉憲政一戦の事  
 十 小澤氏康と上杉憲政一戦の事

三

三







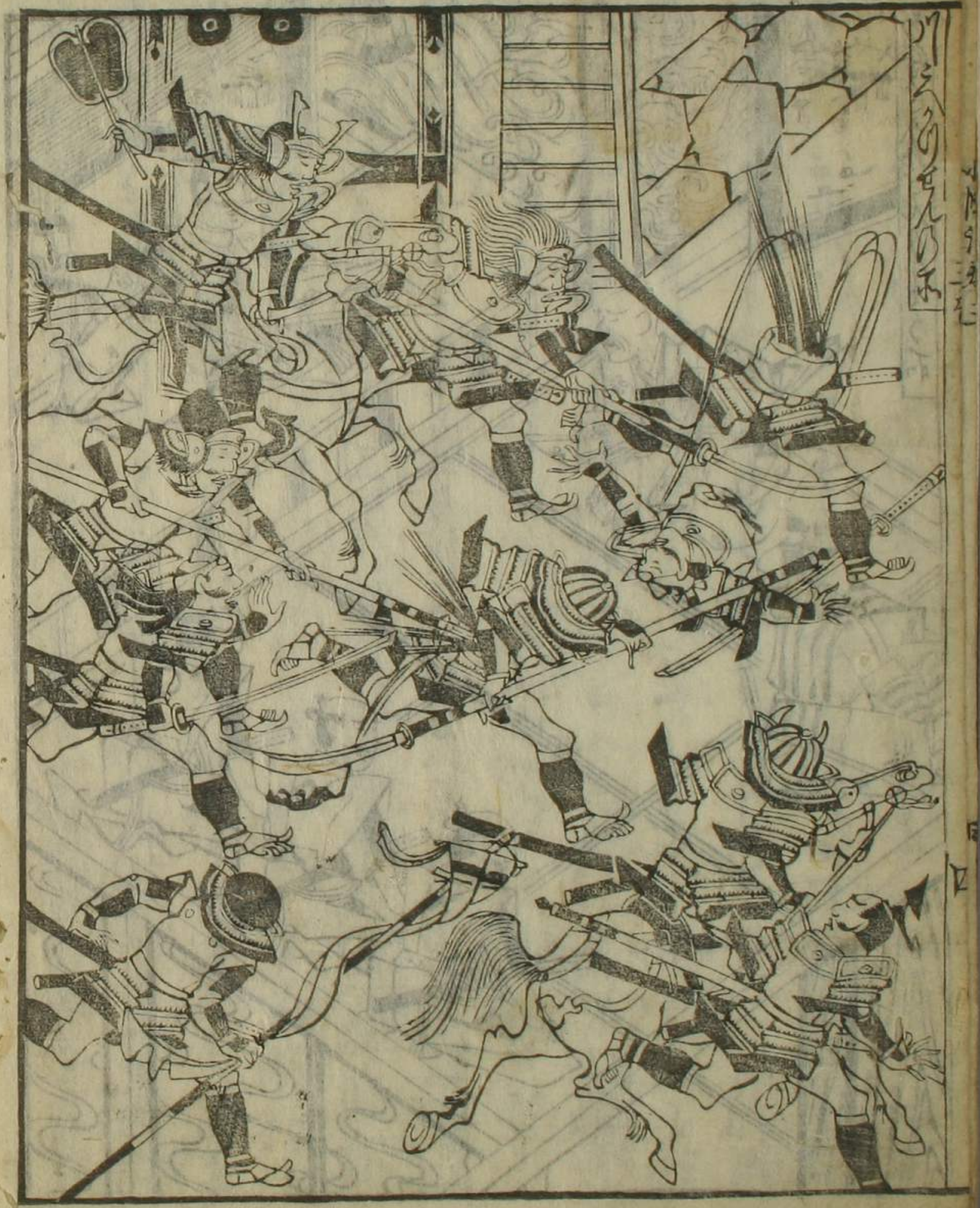








川之のせんのみ



りてのすれは、かゝりて上り小まらぬ事なり。中  
 使挨拶の時刻とうりさど。法軍一戦よりより下を  
 砂窟へぞしりせし。氏康時、若くは、のりりし  
 乃、象と目より、一戦とけり、久く、先年と又  
 氏、徳とさとりて、内へ、ぬこの、此、若、命を、むき、難  
 小、りて、義、明、松と、追、付、一、なり、関、東、法、持、よ、ぬ、さ、ん  
 で、忠、勤、と、け、り、事、部、部、も、そ、ま、り、れ、き、く、作  
 る、の、い、く、程、も、先、忠、と、忘、れ、も、子、孫、と、後、え、れ、へ、事、御  
 出、ら、り、そ、若、子、逆、道、も、小、事、小、事、不、成、は、言、不、成、は、  
 魚、若、居、あ、ま、お、り、り、そ、あ、さ、ま、り、久、く、今、日、一  
 我、と、け、氏、康、心、底、正、流、の、さ、天、乃、の、あ、れ、む、り、し、  
 せん、ハ、う、ん、め、と、用、思、年、此、宿、ら、し、と、れ、い、し、は、有、皆、



至せしめいどりんと書てとくり。氏康、徳軍よむりて  
いづく。それ運ハ天よある。御令おしむくも。ちと合  
我の勝負大勝小勝小なり。軍士れんう。と一  
味よとせざるもふあり。小敵よとそれ大敵よとむ  
くと老士のいさあは義りたり。憲政と近年敵者  
乃合我よ乃小討よと。味方一人と敵十人よふあて  
十人の百人。百騎ハ千騎小たり。合戦も小。一かふ  
くとちとむ。ば方此人敵も敵と十ふ。と味方一  
ふあ。し。い。ふ。ふ。ふ。合戦もと味方此士卒オ一  
て千よある。氏康が太刀風と憲政弱兵。ととり  
あそそ。ゆ。んと。天文十五年四月廿日。討別と梅と  
く。この。事。果。然。と。固。と。あ。げ。て。下。知。し。給。へ。令。義

よふりて。梅。討。死。して。名。と。後。記。よ。と。り。んと。令。と。月  
一。塵。り。り。も。押。し。お。り。も。あ。ら。も。太。敵。と。撞。て。せ。め。り。成。  
城。中。上。総。も。是。と。か。て。門。と。ひ。く。子。余。勝。い。と。と。  
見。切。て。出。る。も。方。も。憲。政。も。道。く。信。と。合。戦。が。ひ。一。固  
者。と。あ。げ。天。地。と。ひ。り。討。つ。ら。れ。つ。討。つ。と。ひ。  
が。憲。政。ら。も。付。敵。小。も。氏。康。勝。よ。ま。て。い。さ。か。ひ。逃。魚  
追。た。と。つ。と。あ。せ。切。少。せ。三。千。余。人。討。捕。り。難。波。田  
入。道。が。ば。方。港。折。の。強。中。人。父。子。二。人。と。の。隼。人。と。  
ら。め。皆。あ。と。く。り。ら。ら。ら。れ。ぬ。憲。政。ハ。越。後。と。う。し。て  
ふ。り。く。と。晴。氏。云。ハ。下。総。へ。落。け。氏。康。極。威。と。を。追。よ  
あ。ら。ひ。し。る。さ。り。上。秋。の。音。候。小。あ。と。く。り。と。せ。あ。し  
時。人。と。ぬ。を。幕。下。に。付。それ。より。の。事。固。八。羽。と。せ。あ



ひつゝおちめ流ひぬ。後氏康の長兄氏政は家督と  
りて。氏康は元龜元年庚午十月に逝去す。其  
法名大聖寺。東陽徳公大居士と号す。氏康乃  
父氏徳天文六年七月十一日。上杉朝定と河越り。  
とて合戦す。氏徳うら勝て。約定とせしむ。例  
よ。かぢひ。我場うら。又は方。氏康宿願にまじり。勝  
州と云ふ事。弓矢の真加よ。かまへる。武家之  
東よ。とて。名。大。お。入。ゆ。け。一。場。

三 房外里見家の事

乃。今。安房。上。総。南。北。海。中。へ。う。ら。び。出。て。河。國。と  
あり。は。女。國。と。里。見。の。家。教。代。持。け。を。君。長。お。侍。り。  
そ。久。の。國。の。郷。に。隣。國。下。総。の。國。と。代。り。たり。して

は井小室の事。乃。今。安房。上。総。南。北。海。中。へ。う。ら。び。出。て。河。國。と  
あり。は。女。國。と。里。見。の。家。教。代。持。け。を。君。長。お。侍。り。  
そ。久。の。國。の。郷。に。隣。國。下。総。の。國。と。代。り。たり。して

親の老や。子。此。子。の。子。で。山。賊。の。り。此。大。事。で。親  
見。と。も。と。も。と。よ。め。家。も。是。ま。た。く。へ。て。さ。ひ。お。せ。り。故。よ  
弟。の。依。法。も。う。れ。れ。三。洞。又。書。れ。た。と。専。ら。一。文。武。と  
た。り。と。し。け。り。上。義。と。こ。の。め。下。あ。て。服。せ。と  
と。り。事。と。し。と。と。正。君。里。見。の。家。の。以。義。を。仁。と。才  
一。と。し。法。信。皆。仁。の。乃。と。を。さ。さ。り。仁。有。か。り。以。勇  
あり。と。と。義。理。を。知。て。け。る。を。小。室。と。お。ま。れ。は。二。足。と  
ひ。り。と。と。と。今。と。か。り。と。孔。子。の。れ。と。ま。り。と。礼。と  
わ。ら。ざ。れ。ば。云。と。と。礼。と。わ。ら。ざ。れ。ば。祝。と。と。あ。れ。一



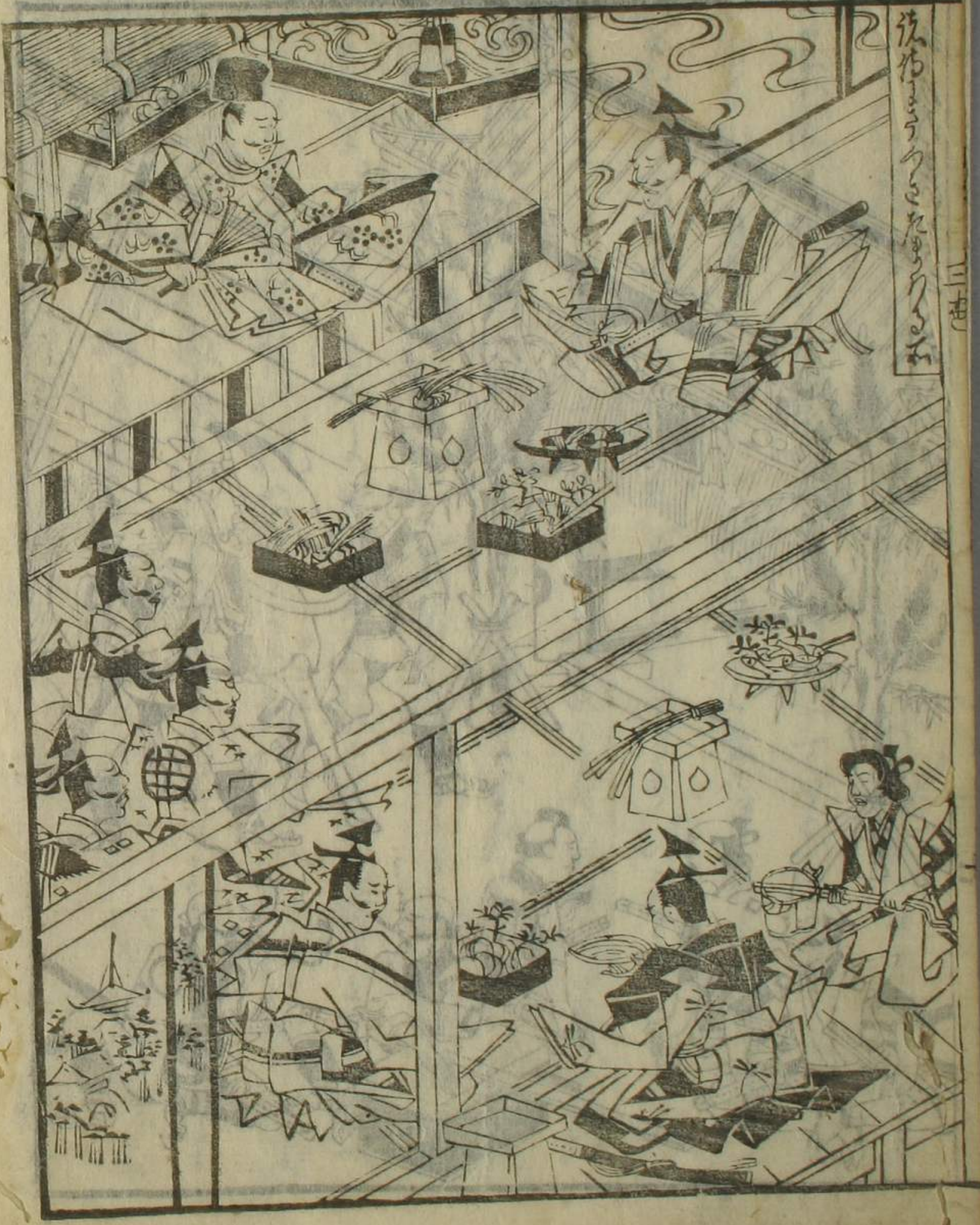
あつたれは種とあられは礼はあつたれば勅とあられはなり  
 れはあ國の侍礼を嚴守しよるて上とる人も下とあか  
 らうと下とる人も上と敬せと云るなり。ふは律  
 義とちりあつかひは礼義とあつたりと此れは正月の  
 礼を他よりとありえはのあつたり。ふは義と此  
 由の法待出仕の時も人のうら井よめて礼の法  
 ありあつたり。まねれうりきとて礼持く立人なり。  
 ちききとていふく上。斤着の礼と云て着とて人へ  
 引もわり。又あ着此礼と云。まねれあへと引事あ  
 上斤茶の礼。あ茶の礼と云るあり。まねれ一人のま  
 ね。あ方見合同時は茶とものむが定は礼なり。まね  
 上は君内分の礼。あ礼立れとて着居のる。あは



茶の礼の儀



後作のうらぐとたまりん



八礼をありし時、小室をとも。正月盃の礼を八定てた  
 けひ。七夜及はく、願うり十夜。汗之りて、後亭に盃  
 とあぐあぐる。あよ。正月中ハ、徳信の礼をよ。かづひ  
 いとまきく。志のまきるり。物よ。相別小條氏とた  
 しくひ。があらうひる。天正元年、北畠重房、小田原へ  
 渡人となり。和隆とけい時よ。越後地國と見ゆ。より  
 安房大國よ。臣服。安房の國より。市安房此  
 へ。汗よりし時。ある老士よ。あひて。房州里母。あはれ。せ  
 と。あはれ。老士か。ひて。い。ま。れ。あ。は。れ。へ。一。青。あ。は  
 乃。國。安。あ。今。鞠。丸。糸。糸。と。号。一。定。人。の。坊。あり。  
 每。房。一。國。と。定。人。一。て。後。信。と。び。人。と。文。武。よ。ま。あ。一。と。  
 上。子。細。ま。く。定。天。王。と。号。も。と。ま。く。い。つ。ま。も。在。る。名。

後作のうらぐとたまりん











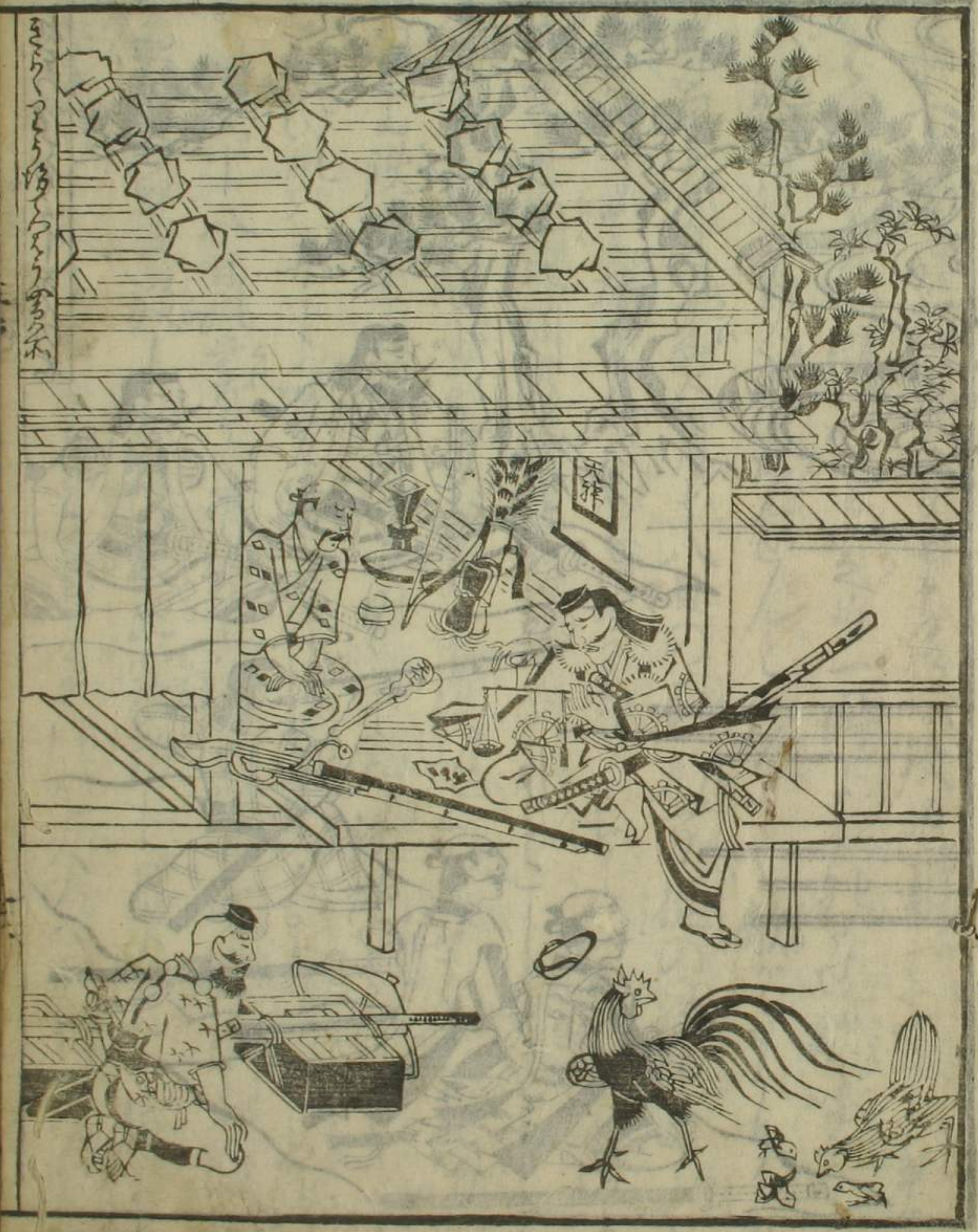








味方は八郎一人を以て。忽村よりと者あり。教員海に  
 て。せむらとていれ。げまよとそれ院の門破事。かきり  
 とつや。とらひもて。も。う。記。よ。ろ。ひ。と。い。れ。れ。ど。も。う。う。  
 小。う。う。い。い。う。ふ。い。ち。ん。や。は。は。鉄。炮。八。郎。が。ら。う。小。も。揚。つ。ら。る。  
 登。一。不。言。よ。う。て。と。一。挺。切。一。物。か。と。稱。が。れ。し。が。氏。  
 康。時。代。場。より。國。康。と。い。し。鉄。炮。を。り。れ。名。人。と。よ。び。ト。一。  
 治。ひ。ぬ。扱。又。根。葉。法。師。は。松。房。二。王。坊。名。和。田。を。と。く。し。小。  
 者。下。つ。と。く。國。東。と。け。ま。つ。り。て。鉄。炮。と。を。一。し。今。  
 凡。是。人。毎。日。持。し。し。り。さ。れ。一。然。ど。一。年。お。條。氏。を。系。田。  
 系。葉。松。乃。時。言。敵。の。証。を。ま。ま。で。め。り。り。海。上。の。波。を。目。と。か。  
 く。舟。と。け。し。と。さ。秀。吉。云。西。小。あ。り。て。山城。を。具。し。小。田。原。  
 乃。城。と。目。の。下。小。凡。く。始。り。る。秀。吉。教。育。れ。合。戦。城。青。也。



秀吉の陣中







進退りき見ゆるの星のぶらり  
余は揚るしを身をまろく担す

地より海を隔てるのりるるや我ら  
鉄炮の火とていざさひきり  
くせを治す事もさしめしに  
敵味方年月とをいり  
老相外乃信人小田糸より  
七年は海をそれうり

昔よりありては八州中  
元年より二十七年

四

源義明の滅亡の事  
下総の回舟  
右河のさき  
北本又剛貞子  
城同河越  
とされぬ敵  
足晴氏







青首は数あるに、ひてよせるか、  
 沈人多敷。三千余討捕内よとして。片山洋島米作下  
 へ一青首よあるに。扱又鼻と一つく。首一つ持来て  
 二つ乃首といひ。鼻汁と一つ二つ持来て首帳よ付人  
 一。とつ者おり。修理分が、いづくに討死する味  
 方此死骸。道流山お小等とんぐ。鼻が首  
 一。ちるちる。死る味方此鼻と。かぬ者やあらん。  
 年寄。陸の國よ。とて。依竹義直と小山のちる井  
 ちる前ちる。いせん。味方勝利とえ。首入百討る  
 六月中旬。炎敷乃討死と云く。鼻とく。小田原へ  
 持来ぬりあり。子細をたて。鼻く事。かめり  
 こと。首帳よ付。伊山助。江川。米作の太



うらまらひまらけんのあ







旗中実検場へ来て、鼻と首と二河内目より、戦場  
前後の仕合と云ふと、此れ分ぐらゝ。も方より、あ  
行山助に命つゞるも、鼻と首とを、た、持、あ、く、も、り、ち  
や、く、び、首、一、け、討、死、生、死、の、世、ぐ、ん、け、あ、さ、よ、水、前、  
とい、て、云、ふ、と、も、お、も、方、二、方、の、け、と、感、び、め、結、び、首  
い、う、ご、ま、し、も、ど、と、い、た、性、一、け、と、い、ぬ、前、後、首、二、河  
内、鼻、太、丈、と、海、一、り、は、く、これ、は、表、又、お、つ、り、  
表、は、合、神、し、て、ら、い、と、い、り、も、る、面、か、れ、か、ま、ら、ぬ、帯、代  
り、あ、り、し、る、と、い、し、扱、又、お、も、方、の、け、と、感、び、め、結、び、首  
者、教、方、の、い、う、く、い、よ、首、と、討、た、と、い、た、は、な、首、と、い  
え、び、道、根、四、事、一、然、一、敵、一、人、田、の、あ、せ、と、い、ひ、よ、  
こ、ら、ら、し、て、ふ、ご、お、者、あ、り、味、方、小、佐、後、津、守、り、せ

の、首、是、と、い、ん、た、一、人、と、い、ひ、け、一、町、か、と、い、ひ、お、く、と、い、  
行、首、は、く、ゆ、か、と、い、は、敵、射、是、と、い、て、又、あ、せ、と、い、ひ、ひ、  
途、中、あ、く、お、向、し、て、と、い、ひ、う、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
切、せ、敵、の、首、と、い、ひ、け、味、方、は、陣、中、小、入、法、人、是、  
と、い、ひ、く、お、も、方、討、た、と、い、ひ、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
と、い、ひ、討、た、と、い、ひ、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
老、を、中、で、去、程、よ、大、人、お、我、よ、人、も、あ、ま、り、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
ぬ、事、ち、り、い、ま、し、戦、場、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
勝、い、ら、し、と、い、ひ、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
ま、ぬ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
ア、し、し、の、お、は、実、ち、り、若、殿、原、ら、ぬ、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、  
味、方、の、首、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、い、ひ、と、







天聖後肉を京別の仙とすもつと大カとれ忠報がた乃  
方よとく見殊職し早ぬは時武清のわう一りの際子  
とひつた入一め給ふと後忠報が仙のさあひの平太  
氏友と一山村小太島お地下より主人の害せしめ  
とんく面くよ太刀とたぐく侍の上より一甲のりか  
事お之忽し一て招作の事強勅しお月く件の三人  
を為よ討まぬ。まうととてよ深殿をく小推家とて京  
成定朝結城七郎朝光おくくひ新平太と市と討  
丸山村小太島とくくんとまきひを京一するとおる  
て奥板とたぐく是と討山村えんれ下よとんく  
へるを京と首とえたりと云く得三目武清殺清に  
高宗家と出前より。おのよれ指と切しめ給ふ是

昨夕強勅の旨。味方討の形勢をがあせし。お朝公  
出前よとて味方討えり。まうお右の指と切給ひぬ。  
いふ。とん大合戦よとてとや

五 軍法昔小からる事

乃。ハ。ハ。ハ。其書ハ唐國より渡り。我朝よとて是  
と孝ひ給ひぬ。孫子兵子七書ちくちて。多しとれは  
保元乃法がひまそハ軍法を定まらひと知くまあり  
まあハせり。保元とす。丙子元年。新院はひん  
中。天下をこれ合戦とみかりし。義朝なる。まを朝  
兄弟ハ敵味方とお分て。内裏新院の大御軍より。  
およひまの戦場よ向て。は。即。は。お。小。お。と。んで。お。お。お。



よきこと。ちり村くふがりとあり。ふらふ者ともくく  
 らしと眼よふたさうと大まどひらけごまそしとの  
 ありよむけて逃け独まきけと専と振舞ぬふ  
 文よある一及して。ちりもはひら矢のちめいを珍  
 らうとさうさう頼朝と石橋山の合戦より村く  
 けく敵とこし。ゆいぬ源平八幡の合戦よといて。義  
 隆教壇ら村結つる神あしく。武者信るとにんし  
 了。拙又文治元年頼朝と秀衡父子とも逃れ  
 て奥州へ發向七月甲戌日。うけまよ志南し結ふ  
 時よ小山下野に大逆政光入道。約えだうとらん  
 どび用あんのひして。まきとる者山前よ志と作と  
 ちか者よいぞや。のり。政光ととる。ゆい

くま。中朝之の勇士。熊谷小波。忠家ありと云  
 政光といふ。何事小日本。之の別の者よいぞやと。し  
 仍よ云平家追討の時。谷下の我場よといて。父子  
 おちし。ひ命と捨んと。やけとる。あやうとの。まよ。政光  
 八有。の者あり。まよ。ある。笑て。まよ。君の。為よ。命  
 と捨る。の。系。勇。士。れ。あ。為。あり。い。そ。く。あ。ま。い。ん  
 や。た。一。か。く。れ。と。此。の。事。な。あ。の。の。高。原。を。死。り  
 よ。け。て。あ。ま。ら。ん。あ。う。と。ま。け。ま。し。ま。ま。と。あ。ら。は。る  
 政光。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。高。原。と。先。よ。ま。ま。と。あ。ま。ら。ん  
 ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん  
 け。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん  
 びよ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん。あ。ま。ら。ん

七傳記卷三

十九







せり。母又高尾のことも中よとして。是を置ともめく物  
つらりとえり。故海濱小云一人は信あさる事と求  
海に事ありと云。あよそれく小云る所の女知乃  
をより。おとをめ。旗。鉄炮。港の物。しらと一人を  
尸付の時。皆それく。此の事。約の下知とある。一人  
の物。以。他。生。よ。ま。て。の。残。る。所。の。役。人。を。退。め。て。下。に  
ま。り。よ。り。て。軍。法。と。定。ま。り。じ。り。の。か。板。の。法。も  
ま。り。り。し。軍。陣。よ。と。い。て。若。一。人。の。法。を。定。ま。り。し。む  
く。者。を。軍。中。と。ぬ。き。ん。で。ま。り。ひ。は。難。を。記。す。名  
と。あ。り。ま。し。と。い。つ。た。も。あ。ら。ま。ら。船。科。よ。と。こ。あ。り。あ。り  
大。小。名。た。よ。法。を。定。め。り。て。それく。此。後。と。法。と。し。る。と  
ま。り。て。し。ら。の。中。と。し。ひ。え。れ。を。合。戦。の。時。に。用。ひ。し。る。也。

ともあれ。一樹よ。定。ま。り。唐。と。日本。人の。あ。ち。ち。り  
つ。ら。と。関。東。と。関。西。の。ち。矢。の。う。こ。ま。か。ら。る。む。り。し。と  
と。程。り。て。各。別。あり。然。と。し。た。文。と。た。り。武。と  
有。ま。る。る。は。い。め。し。の。法。を。定。ま。り。し。る。也。と。い。へ。り  
む。保。元。の。合。戦。より。永。禄。八。し。五。年。公。方。義。隆  
公。滅。亡。ま。り。百。十。一。年。此。百。の。ち。矢。を。殺。あ。ら。て。り  
の。後。より。し。母。又。鎌。倉。と。い。て。友。氏。上。杉。安。房。守  
憲。実。む。り。ん。よ。り。て。永。享。十。一。年。持。氏。公。方。を。害。す  
て。関。東。乱。四。と。い。は。れ。り。合。戦。の。事。あ。り。し。る。也。関。東。小。の  
直。り。し。と。い。つ。た。も。あ。ら。ま。ら。し。法。の。お。続。し。持。氏  
公。の。に。男。成。氏。公。を。引。出。し。る。方。の。由。を。記。す。と。い。は。れ。り  
よ。あ。ら。ま。り。友。氏。上。杉。の。下。知。よ。り。し。と。の。れ。く。が。四



神后敏よりく、永久と死ひ。先祖とまは平四郎乃  
郎。この子、孫くまの、接育せんと義と専ら尊ん  
とす。くも、死むも辱もまれば、國境とあり、そひ是ハ  
頼朝云より、い來我家は、清らるるおれあり。いおれあり  
了せハ、君ととも、いらさるる。と、我場とて、命とて、捨  
置り、いび、雨帯より、命と賣切らるる。お小一、雨帯、命  
と賣て、いのらと、か、い、い、あり、あ、と、て、或、時、ハ、初、ん  
ふ、や、と、全、云、か、へ、ら、と、引、或、時、ハ、友、成、上、松、と、我、ひ、心  
事、す。世、上、云、事、よ、ま、く、ハ、先、親、と、あ、し、家、か、此  
系、局、と、津、浦、よ、り、小、延、徳、年、中、云、方、政、氏、云、時、代、大、毒  
号、栖、居、的、昇、也。毛、尾、左、衛、門、尉、宗、信、依、保、田、河、内、守、亮、源、太  
田、兼、右、衛、門、守、尾、若、狭、守、太、田、道、隆、沙、弥、院、承、徳、也、入

道、か、ど、が、あ、り、し、る、右、さ、小、札、也。忍、老、が、何、く、披、身、守  
一、小、い、ホ、の、侍、也、家、か、此、を、記、と、あ、る、を、い、そ、う、さ、う  
す、る、家、と、端、也。東、境、と、証、文、と、沙、法、よ、と、う、お  
我、お、先、祖、入、侍、上、り、さ、か、り、あり。計、く、ハ、浄、教、書、也、ハ  
極、よ、ま、く、嚴、守、也。和、久、三、年、岳、札、通、念、より、京、放  
へ、責、上、る、時、此、引、付、先、あり。吾、妻、體、と、披、身、せ、る、所  
也。是、未、代、ま、で、の、的、境、あり、と、記、と、是、不、重、なり。  
人、く、り、て、あ、を、い、給、つ、る、あ、ま、り、か、ん、の、考、也、長、年、中  
家、康、云、い、文、と、始、て、見、知、し、給、ひ、し、り、り、世、の、日、流、布  
也。組、い、文、の、外、也。東、境、と、号、と、書、物、を、う、扱、又、い、文  
乃、寫、し、ま、す。と、時、代、沙、法、し、る、る、か、が、は、り、ア、先、不  
也。小、條、早、雲、云、東、國、へ、入、氏、康、時、代、東、八、ヶ、國、と、遊、付

小條早雲

三三



可くするに關東傳の系圖を以て之をあらわすといふも、凡れ其の  
 まり又ち其年中、劫部として、かまはるる大物と  
 うらひひるるより、矢の矢屋の如く、一は替まらり、信を以て  
 勿推たり。武勇とこのも、文と學び、殆んど一といふも、  
 私欲なく、忠信は、賞と罰と、一運は、事として、成此  
 といふ、小討勝て、武勇のかまはるる、とえ、終へり、され、長  
 臣のいさめ、を用ひ、いと、為此、うり、と、ち、た、あ、や、下人の明  
 智が、為る。益なく、害せしむ。秀吉公の、善惡を、分りし。  
 智謀、武勇、とりて、教、方、れ、合、戦、小、切、勝、高、藤、四、と、こ、よ、了、  
 久、天下、泰、平、は、治、希、代、の、名、大、物、あり、と、い、た、在、乃、  
 一、代、の、秀、吉、公、の、か、ま、は、る、る、武、軍、並、治、ひ、ぬ、と、い、む、老、人、云、  
 此、支、那、の、文、乃、學、び、ち、た、ゆ、武、威、の、小、か、り、に、義、乃、

乃ち、神、佛、池、と、も、海、山、と、い、治、を、も、國、民、の、ち、け、さ、  
 かり、ひ、と、も、舟、と、も、心、の、い、り、と、や、め、以、信、長、公、天、台、山、  
 と、灰、燼、し、三、千、れ、流、と、教、害、も、秀、吉、公、根、本、元、  
 後、上、人、の、具、寺、と、燒、亡、し、僧、侶、此、首、と、切、佛、敵、を、か、  
 一、代、は、秀、吉、公、云、云、と、い、ふ、二、代、は、治、乃、以、家、滅、亡、と、治、  
 乃、為、蘇、老、泉、云、云、一、愚、り、と、百、勇、と、さ、く、一、靜、り、と、百、  
 勳、と、割、と、い、ふ、と、い、ふ、大、物、の、ち、物、あり、二、つ、の、謀、也、と、い、  
 て、百、の、血、氣、此、勇、と、と、い、ひ、る、一、つ、は、靜、と、と、い、ひ、て、百、  
 乃、一、と、い、ふ、と、い、ふ、一、旦、の、い、り、と、志、川、め、も、日本、  
 双、の、具、山、と、破、却、し、數、千、れ、僧、徒、の、首、と、切、ち、飛、お、ひ、る、  
 たり、と、い、ふ、れ、ど、う、い、ふ、と、い、ふ、や、尚、書、云、飛、の、さ、く、ひ、と、  
 抑、一、切、の、さ、く、ひ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、國、家、と、治、る、君、



ハチノリと文と字の佛神と信敬一佛法王法般衆昌  
し。國民安世と神とあかんと在乃あつた文を記を仁  
義とををさまりの佛神とを敬せむとありや。ち  
八真加よそひきこ一代よて滅盡一終ふ揚又國東  
よとのて上杉輝虎ハ戰場よ出。郎臣小名とく。徳  
と大太刀討し。独々れげと好も。極大おのたまれを。  
武田信玄ハ武敏とちと。片さ地よち矢とれ  
て。片よ大おの名とえ終へて。いあお独々れげと  
ねも。武威よかるともとせり。孫子ハ兵法とよく  
あり。勇士とありと。とと。兵勇と用ひと。てふ  
と。して。謀と赤一と。勝事と専と。相又小田原  
水原家早雲より。い。あ。代のち矢とや。乃。一。

佛神とと。我軍と。のり。仁義と。民と。か  
で。智仁勇此法と。國八列と。百余年。静澄と。持  
け。ち。矢の。と。右の大お武軍。皆  
滅亡と。治ひぬ。と。後代と。も。子ひあ  
ち。道と。子ひか。

〔六〕 女上杉と平氏義戦ひの事

女上杉と。平氏義戦ひの事。平氏義戦ひの  
事と。女上杉と。と。中。と。武老士。流  
て。長。比が。國東。と。号。た。以  
源政氏。鎌倉。と。海。と。是。左。依成氏。乃  
。持氏。より。三代。の。あ。わ。り。と。山内。忠  
。定。の。定。正。女上杉。國東。奥。平。法。















且れ老士流りたる心傳早雲氏流左京大夫氏經  
父子小徒へも時代のら矢よあひも上意永代此  
のくも開東よとて公義ありし事と能て物流  
せり。扱又大法師氏康切流舟氏政二代のいらこよ  
皆人わひとりと云く。くりにかると。いふ事さ  
安も月し。ば抄物小おほくの公義とある。はなるも  
目錄乃次第

一應永年中。禪秀乱といひ傳する事。もは鎌倉  
公方よの義清。皆持氏云こり。治は開東友氏上教右  
悲。依氏憲。法名禪秀入道。公方持氏云。送ん流  
企満隆と一味。開八外。扱と。奥外。まてと文  
とらぐ。し。軍勢をせ来く。鎌倉あく。兼日。十日。此

大合戦あり。持氏云討まけ。應永二十三年丙申。十  
二月。後河の國。大森山。を。あきせ。治ひ。上教安房と  
憲。基。六。越。後。へ。と。い。は。ゆ。の。事。

一應永二十四年。持氏云。後河。よ。た。り。し。事。京。都。へ。う  
つ。又。治。よ。小。う。り。義。持。公。下。知。り。て。鎌。倉。よ。て。公  
戦。あり。持。氏。云。う。り。皆。満。隆。云。持。仲。云。と。り。上。教  
六。意。の。禪。秀。入。道。一。親。憲。言。下。あ。く。滅。亡。の。事。

一應永二十八年。武田。越。八。郎。追。討。の。事。并。信。元  
攻。國。の。事。

一永享子の治がひ云。公方持氏云。鎌倉よたり。治も。治も  
よ。開。東。友。氏。上。教。安。房。守。憲。言。叛。逆。と。く。ら。し。と。し。  
京。都。の。公。方。義。教。を。へ。り。小。う。り。京。都。地。下。を。鎌。倉



よとして。公我あり。持氏よりらまを。同さ十年己未  
二月十日。父子相自害す。それより。開東法圓より。洋  
指出来し。修羅のちもつことなる事。

一 永享年中。持氏公。此法圓。去王。後三男。康王。後  
女君。法城七郎。光久。が。敏。より。ま。と。西。上。秋  
安房守。憲実。大。お。して。大軍。あ。く。嘉吉。元  
年。辛酉。四月十六日。法城の城。と。せ。あ。あ。し。女君  
若。と。生。捕。ち。り。流。る。法圓。玄井。此。の。場。あ。く。  
同。さ。年。乃。秋。物。使。下。つ。ま。ま。康王。後。自。害  
し。終。事。

一文女のはま。で。開東法圓。名。を。り。ち。夫。と。み。く。山。事。  
ま。し。と。比。も。を。在。つ。入。道。昌。賢。の。文。武。の。と。の。ち。り。

同。未。よ。ま。ま。く。し。と。ま。く。く。い。と。持。氏。公。の。官。方。永。享  
五年。信。別。よ。か。れ。ま。し。由。と。し。し。出。し。天。氣。と。う  
く。の。官。位。が。お。成。成。る。に。任。じ。鑑。人。志。れ。る。方。と。号。と。  
是。よ。り。の。て。開。東。を。り。も。ち。る。事。

一 享徳三年。甲戌。十二月廿七日。乙酉。西。山。門。成。氏。公。  
ま。ら。く。よ。と。い。て。上。秋。右。京。亮。憲。忠。と。誅。し。な。す。よ  
い。付。上。秋。引。分。て。う。く。ひ。も。ち。る。一。族。鉾。指。を。そ。成  
成。云。叶。い。と。古。河。へ。水。馬。と。入。給。事。

一 康正年中。法圓。兵。乱。を。ま。さ。る。ま。よ。上。越。の。さ。ら  
ひ。よ。若。任。ま。ら。る。上。秋。民。戸。大。多。く。死。定。池。来。て。運。石  
ホ。と。進。付。し。東。國。治。る。事。

一 文明三年。卯の年。乙酉。成。氏。公。上。秋。と。う。く。ひ。成



氏公討まけ。古河と去て千葉へ引移り給ふ事

一 文明年中。この頃とていひまゝ。和睦の義ありまゝ。

同十年戊戌七月十七日成氏公古河へ攻め給ふ事

一 文明年中。長尾景春在束の射京去。この頃上杉

修理大夫定正とて遠征し。成氏公に子ありまゝとて

合戦とて定正討まけ。陣取の城あり給ふ事

是ハ上杉政定へ進心とてまゝ。この頃文あり。此の頃

二 況ある事

一 同十八丙午年。船谷上杉定正家老太田道灌は

海も討まけ。上杉の棟梁山内政定とて不和出

事。是ハ上杉とていひの事

一 同年二月六日上杉政定と同名定正。相州実を

### 合戦の事

一 同年六月八日相州次郎景春とて。鎌倉合戦

方。是ハ以政氏公定正とて。一味し。政定と合戦の事

一 同年十一月三日。上杉武則とて。足利一戦の事

一 長享二年申年。武則松山とて。是ハ上杉とて。合戦の事

一 延徳年中。伊豆國小原は。堀越の所。この頃。由を

別し。是ハ上杉とて。伊豆國新九郎早雲氏。是ハ上杉と

一 文明年中。伊豆の國とて。此の頃

一 明應三年甲寅九月。上杉相州新井。是ハ上杉と

一 浦乃。是ハ上杉とて。此の事

一 的意年中。相州小田原は。大森。是ハ上杉と。在城を

是ハ上杉とて。此の事



一文龜年中相引あく山條早雲氏義と上杉孔

定我いの事

一 永正元年甲子九月武川河越の城に上杉み郎

羽良加勢うて今川氏親山條氏義と一味し武

川直河原よとて上杉孔定と合我の事

一同年十月上杉孔定越後の軍兵と率し武川

河越上杉朝良居城とせしむ。翌年の春。和平の

義もその孔定越後へ攻陣乃事

一 永正年中越中の上杉九郎房義と家老長尾

六郎為宗とたふしわり。房義討まけ兩海と

り地して滅亡の事

一 同正年二方政氏と。その基公父子不和の事出

とる凡の二極の六定がう。唐と日本人の心ちを

つらむ。關東と關西のち矢のうらむむらむむらむ

とを程りて各別あり。然といふ。文とたふ。武と

若まじむ。いふ。人のけ。通くそまへんむらむらむ

を。保元の合我より。永禄八し五年。公方義輝

云。滅亡す。て。百十一年。此るのち。矢。を。殺。あ。が。て。か

つ。あ。り。と。母。又。鎌。倉。よ。と。て。友。氏。上。杉。安。房。守

憲。公。心。む。り。ん。よ。り。て。永。享。十。一。年。持。氏。公。生。言。よ

て。關。東。乱。四。と。ぬ。く。合。我。心。事。あ。り。ん。よ。り。關。東。り

ま。り。と。あ。り。關。東。を。ま。り。つ。つ。と。は。信。お。後。し。持。氏

云。の。河。原。成。氏。云。引。出。し。云。方。の。水。道。絶。と。ぬ。さ。る。若

よ。あ。さ。さ。友。氏。上。杉。の。下。知。よ。あ。さ。さ。う。い。と。の。れ。く。關







一 あり。此をよ。今川義元。上列上杉憲政と一味し  
憲政ハ武列河越の城とせめ。義元ハ長久保乃城  
とせけるなり

一 同十四年。古河のより晴氏云。上杉憲政と一味し。  
武列河越の城とせ年せある。小條氏康出るとし。  
同十五年七月廿日合戦も。云方討まけ古河へ  
落し。上杉ハ越後へ敗れ乃事

一 同十六年。甲寅二月今川義元加勢り。云方討まけ古河へ  
田信玄後列へ出ると。小條氏康伴登へ出陣し。  
多々々ひの事

一 同年十月。目小條氏康古河の城とせめ。落し  
晴氏云父子と相列。理田好之なり。云方討まけ古河へ

一 弘治二丙辰年。小條氏康天氣と。云方討まけ古河へ  
乃着。石元服。云々。左馬以義氏云。云方討まけ古河へ  
西谷へ。云方討まけ古河へ。晴氏云。云方討まけ古河へ  
弘治年中。云方討まけ古河へ。田信玄。今川義元。小條氏康

一 同二年。十月三日。上杉輝虎。太田三平。云方討まけ古河へ  
上列へ出陣も。小條氏康出ると。多々々ひの事

一 同二年。房州。里見義弘。云方討まけ古河へ。三浦へ渡海し  
城へ。云方討まけ古河へ。小條氏康と多々々ひの事

一 同年十二月十八日。義氏云。下総の國。宿へ云



つと。同三年。晴氏父子に人流死の事。

同三年。後列今川義元。尾張の國と切てらん  
と。軍兵と率し。賁のりるまよ。尾外よと  
て。織田三郎信長もあひ。六月十九日義えめ川  
にり此事

一 永禄の比りひ。上杉憲政越後小まろく。上杉輝虎  
と。頼朝。常陸。下野。佐渡。上野。武蔵の侍ども。悉  
一味し。輝虎大お軍らうて。同し。三年庚申  
三月。小田原へちうりく事

一 同三年。小條氏康氏列へ出るし。岩付の城を  
太田三系所討の事

一 同四年。九月十日。上杉輝虎佐渡の國河津中流に

よみて。武田信玄と合戦の事

一 同八年。此去。武田列松山上。田安。津波。城と小條氏  
康せめれと事

一 同七年。甲子。正月八日。房列。里見義弘。下総  
より。臺小出陣と。小條氏康氏政出る合戦し  
義弘より。け敗小の事

一 永禄年中。上杉輝虎上列。泥田へ出陣。小條氏  
康氏政出るし。あひの事

一 同年中。里見義弘。上総の國池和田の城より。多賀  
島人在城と。小條氏康氏政出るし。賁のりるまよ

一 同十一年。戊辰。拾月。武田信玄。後列へ出るし。  
今川氏直と逃し。後府より。と立ち。氏直と



を別急川へ入るの事

一 同年中、和歌山の義隆と上杉輝虎とたつひ

と争ひつゝ、和歌山の義隆と上杉輝虎とたつひ

七畷三島輝虎の書子と成て、越後へ越山の事

一 同十二年正月、上旬、小幡氏康、氏政、駿河へを發

三牧指、高圓寺、蒲原の城との川より、中井

高山より、こと、武田信玄と同日、月を、戦ひあり

一 信玄、越前と、甲斐へ、近づく事

一 同年の六月、武田信玄、駿河、加波崎、湯下陣

と、小幡氏康、氏政、駿河へ、發向し、信玄と、こり

一 相討し、國書とよれば、信玄おどろき、さへ、らん

一 儀、大井、力を、こと、おとせ、戦ひ、と、甲斐

信軍おどろき、わけゆく事

一 同年十月、上旬、武田信玄、信濃、上野、武義の、信

と、一味し、信玄、大將軍と、して、相換、酒匂、を、働

る。同三増合戦の事

一 同年、拾月、後列、蒲原より、小幡、新三島、在城と

一 信玄、せめ、おと、事

一 同十三年の春、武田信玄、後列へ、出陣、小幡、氏政

と、争ひ、つゝ、を、發、多、く、ひ、の、事

一 元龜元年、庚午の夏、氏政、西上列へ、出陣、武田、信

一 玄と、争ひ、つゝ、ひ、此、事

一 同二年、此秋、小幡、氏政、常列、を、依、竹、義重、と、討

一 陣、の、事

小幡氏政















Handwritten marginal notes in Chinese characters on the right edge of the page.

Handwritten Chinese characters, likely a title or section header, located in the upper right quadrant of the page.

Handwritten Chinese characters, possibly a date or a specific reference, located below the title.

Main body of handwritten Chinese characters, arranged in vertical columns and reading from right to left. The text appears to be a detailed account or a list of items.

Handwritten Chinese characters at the bottom right corner, possibly a signature or a concluding note.



